

## 取締役会

開催実績(2019年度)

21回

取締役構成



2019年度は取締役会を計21回開催し、主に経営計画や各委員会での議論、大規模な自然災害への対策とレジリエンス強化、年度末には、新型コロナウイルスへの対応について審議を行いました。私も昨年度は取締役として、執行と監督が分離した体制において、社長以下の執行側が果断な経営をできるような支援とその働きの監督などの職務に取り組みました。今年度からは取締役会議長として、TEPCOグループの持続的な企業価値向上に資するべく、電力業界の見識のみにとらわれない広範で多様性のある活発な議論を促進し、取締役会がその実効性を十分に発揮し、しっかりとその重責を果たすことができるよう努力してまいります。

取締役会での主な審議トピック(2019年度)

- 取締役会が管理する重要な経営課題について
- 各委員会の職務執行状況について
- コーポレートガバナンス・コードへの対応について
- ESG経営戦略について
- COVID-19への対応について
- 国内外洋上風力事業について
- 事業モニタリングについて
- 財務諸表等の承認について
- 株主総会の目的事項等について
- 大規模な自然災害への対策とレジリエンスの強化について
- 役員人事について

主な決議事項

再生可能エネルギー発電事業の分社化について

(2019年8月7日、同年11月11日)

- 世界的な脱炭素化の流れを大きなビジネスチャンスと捉え、再生可能エネルギーの「主力電源化」を推し進めていくことを確認
- 当社グループの再生可能エネルギーの認知度向上を志向した再生可能エネルギー電源への特化、国内外のパートナーとの連携や大規模な投資などに対する迅速な意思決定のための責任と権限の明確化、およびそれを支える資金調達の柔軟化を実現するため、再生可能エネルギー発電事業の分社化を決定

主な審議事項

ESG潮流への対応の基本的方向性について(2019年5月22日)

(主な発言)

- ESG経営の推進による企業価値の向上のためにも、ESG項目につながる具体的な戦略に基づく事業を推進していくことが重要
- 統合報告書について、当社のガバナンスの状況を可視化するために、社外取締役メッセージなどの記載の充実を検討すべき